●特集1

小さなアナだけどトラブルが怖い！

若い女性のあいだで人気の「ピアス」――あの耳タブに小さな穴をあけるピアス人口が、最近では月に一〇万人ものペースで増えつづけていて、しかもそのトラブルもいっしょに急増しているという。癌研付属病院の外科医を経て、東京・池袋でピアスセンターを開業している高橋知之医師にお話を伺った。

◆ピアスの穴は、はじめは生傷

東京・池袋の「池袋ピアスセンター」は、全国でも数少ないピアス専門の診療所。会社帰りのOL、友達と誘いあって来ている女子学生、高校生らしい女の子……。ターミナル駅に近いここには大勢の若い女性が来院していた。屈託もなく、期待に瞳を輝かせて、ピアスの穴をあけてもらっている。

「ほんの一〇年ほど前には、ピアスの穴があると就職試験に影響したと聞きますが、いまはそんなことはない。変わりましたね」

と、高橋知之医師は語る。ピアスに関係するトラブルの予防と治療に本格的に取り組んでいる形成外科医である。

治療中の女性Aさんが来院していた。十年ほど前、ドイツにホームステイしていたときピアスの穴をあけたが、どうも調子が悪い。耳たぶに湿疹はできるし、じくじくする。しかし、ピアスはあきらめたくない。「十年後に、ようやくピアスができそうです」と、うれしそうだ。高橋さんによると、この人は金属アレルギーを起こしていたとのことである。

ピアスの穴をあけるには二通りがある。耳たぶに局部麻酔をし、注射針を刺して穴を通したうえで手持ちのピアスをつけておく方法と、ピアスガンというホッチキスのような機械で、穴あけ専用のピアスを直接つける方法。後者は麻酔なしだが、痛みを感じる間もないし出血もない。日本ではピアスの穴あけは医療行為と定められているので、アクセサリー店などであけることは法律違反となる。

穴をあけた後、ピアスをつけたままでいると、内側が上皮化して穴が完成する。それまでにだいたい一カ月。その間は生傷の状態だから出血することもあるし、リンパ液などの滲出液も出る。穴は医者にあけてもらうが、その後のケアは本人がやらなければならない。

「穴の完成までの期間に一八金のピアスを使うと、私のデータでは三〇パーセントが化膿してしまう。医者に行けば、ピアスをはずしないといわれるから行きたがらない。じくじくしたままでピアスをつけているんですね」

といっても、直接生命にかかわらないのでなかなか表面化しにくい。しかし、十人のうち三人にトラブルが起こるとなると深刻だ。穴あけから三カ月以上経てもじくじくしている、耳たぶがカサカサになる、赤く腫れるなどの症状。穴の回りがしこりになったり、穴にコブができる、ピアスが耳の中にうもれてしまうひどいケースもあるそうだ。

一八金のピアスには問題点が二つある。ひとつには、もともとおしゃれ用のピアスなので軸が細いこと。「細い穴しかできないと滲出液が外に出ず、耳の内側にたまってしまい、細菌に感染しやすい。滲出液をうまく体外に出すことがピアスの穴あけのポイントです」

もうひとつは、一八金ピアスの素材の問題である。一八金製品は金の純度七五パーセント、残り二五パーセントには主にニッケルが使われている。金属の成分、とくにニッケルが溶けて傷口から体内に入り、金属アレルギーを引き起こしやすい。

「化膿した三〇パーセントの人がそのままピアスをしていると、うち一〇パーセントくらいは、金属アレルギーになるかもしれない」

欧米の人は九割以上がピアスをしているといわれるが、十数年前に欧米の医者の間では金属アレルギーが大きな問題になったという。日本では、現在のところ確かなデータはないものの、徐々に深刻な皮膚のトラブルのひとつに数えられはじめている。

◆金属アレルギーとは

花粉症やアトピーは生まれつきのアレルギー体質との関わりが深く、自分自身の力だけでは予防しにくい。しかし、金属アレルギーは後天的アレルギー。ピアスは金属アレルギーの原因になるからしないほうがいい、と主張する皮膚科の医師もいる。

「それは一面としては事実です。しかし、女性の心理としてピアスを何とかして着けたい」

では、どうするか。その前に金属アレルギーとはいったい何だろう。

「からだにとっての異物が体内にはいると、からだにはそのものを排除しようという働きが起きる。免疫に関係する機能ですね。ピアスの穴がきちんと完成していれば穴の内側は皮膚となっていますから、皮膚がバリアとなり、異物としての金属は入りにくい。しかし、生傷の状態だとすぐに入っていきます」

金属アレルギーは、うるしかぶれや化粧かぶれと同様の「接触皮膚炎」である。『アレルギーの話』（矢田純一著　岩波新書）によると、接触皮膚炎は「アレルゲンとなる物質が皮膚に作用し、その部分に病気を起こすものです。物の作用した所の皮膚が赤くかゆくなり、腫れてきます。水をもってじくじくすることもあり、水ぶくれを作ることもあります」「これは皮膚に作用した物質に対して、その物質に対するリンパ球が反応して起こす皮膚の炎症です」とある。

「種類によってアレルギーになりやすい金属とそうでない金属がある。金はなりにくい。なりやすいものの代表はニッケルです。私の経験では、ニッケルは一週間でアレルギーになるが、金は接触してから三カ月経過しないと起きない。ということは、ピアスの穴は約一カ月で完成しますから、その間はニッケルを含むピアスは最も不適だということになる。一八金のピアスをさけたほうがいいと言ったのはこういう理由です」

――では、ニッケルの指輪やネックレスでも金属アレルギーを起こしますか。

「ニッケルはメッキによく使われているので、安物の指輪などを着け続けていたらかぶれることもある。ピアスをしている人としていない人では、ニッケルによるアレルギーの起こる度合に差があるかを調べた外国のデータがあります。症状の重い軽いは別にして、ピアスをしていると一五、六パーセントがニッケルにかぶれる。ピアスをしていないと二パーセント以下です」

金属アレルギーはピアスの穴あけが引き金になり、その原因はニッケルによる場合が圧倒的に多いとみてよさそうだ。

池袋ピアスセンターでは、ピアスのトラブルを訴える患者全員に金属アレルギーの検査を実施している。

滲出液や消毒液などによる単なるかぶれか、金属アレルギーかどうか、さらに何の金属アレルギーかは、検査してみなければわからないからだ。金、銀、プラチナ、ニッケルのそれぞれの溶液を染みこませたパッチ（布）を何日間か腕の皮膚に貼っておく「パッチ・テスト」という簡単な方法だ。赤くなったり腫れたりの反応が現れた金属のアレルギーだということになる。

「さきほどのAさんは、金とニッケルに反応が出た。しかし、金の指輪にはかぶれていないから、非常に弱いアレルギーということになる。最初はプラチナのピアスからつけるよう言っています。要するにかぶれない素材のピアスをメインにすれば、まずは問題はない」

◆これだけはチェックしたい

ピアスの穴の完成前にピアスをはずしてしまうと、かさぶたができて穴はふさがる。

「しかし、耳の内部にウミをとじこめたままの状態になることが往々にしてある。するとAさんのように何年たっても治らない。そういう場合はシリコン製のリングに替えてじくじくを自然に出すようにすると、穴にはきちんと上皮ができてきます」

シリコンは柔らかくアレルギーを起こす恐れのない素材。

Aさんは実はこの日、晴れてシリコン・リングを卒業できたのだった。

とにかくピアスの成功のコツは、トラブルなく早期に穴を完成させることにつきる。

それにはまず、滲出液が出やすい環境をつくること。高橋さんがすすめるのは、医療用ステンレスに二四金（純金）メッキがほどこしてある穴あけ専用ピアス。アレルギーになりにくい金の素材、太い軸と大きな留め金、締めすぎ防止ストッパーつきの安全設計だ。また、耳たぶの厚い人のために、池袋ピアスセンターでは、従来の穴あけ専用ピアスより二ミリ長いロングタイプのものも用意している。

トラブルなく穴を完成させるためには、完成までのケアも見過ごせない。

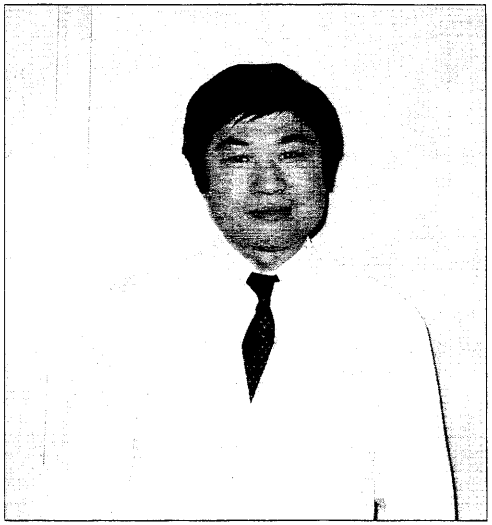
「つまり、ピアスにおけるソフト面ですね。消毒にアルコールを使うと、乾燥してカサカサになります。そして消毒液や軟膏のためにかぶれたり、化膿することもあるのです」

その人に合ったサイズの穴あけ専用ピアスの軸に、非アルコールの刺激の弱い消毒液を一日に一～二回落としてケアをすれば、トラブルは限りなくゼロに近づくだろう。

「穴あけ専用ピアスであけてくれるか、もしも化膿などのトラブルが起こった場合には治してくれるか。これからピアスをしたい人は、事前にこの二つを確かめたほうがよい」

高橋さんは力説した。

■文――八田尚子



ピアスセンター高橋知之医師